

1. 調査報告概要表

作成日 2010年3月6日

【評価実施概要】

事業所番号	1072200205
法人名	タクミ工業 (株)
事業所名	グループホーム ベルジ吉岡たやの家
所在地	群馬県北群馬郡吉岡町上野田96番地 (電話) 0279-30-6060

評価機関名	サービス評価機構センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大渡町1-10-7
訪問調査日	平成22年1月29日

【情報提供票より】(22年1月6日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 2 月 1 日		
ユニット数	5 ユニット	利用定員数計	45 人
職員数	37 人	常勤	21 人, 非常勤 16 人, 常勤換算 29.2

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋造り 2階建て1~2階部分
	鉄筋造り3階建て1~3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	光熱費月1,950円他	
敷金	有() 円		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 300,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有() 無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	円
	または1日当たり			

(4) 利用者の概要(1月6日現在)

利用者人数	44 名	男性	19 名	25 名
要介護1	10 名	要介護2	7 名	
要介護3	15 名	要介護4	7 名	
要介護5	4 名	要支援2	0 名	
年齢	平均 80.8 歳	最低	62 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	上武呼吸器科内科病院 芳賀歯科医院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

四季の移り変わりを肌で感じることでできるホームで、どの居室からも外の景色が見渡せる環境になっている。地域の自治会に加入したことで、住民との日常的なかかわりも増え、認知症の講演を依頼されるなど地域の中でのホームの存在意義も増している。5つのユニットが協力して取り組む行事や個々での柔軟な支援など管理者を中心に質の高いサービスを提供するために討議を積み重ねている。法人の研修体制も充実しており、今後も利用者が主役の支援を実践してもらえることを期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価結果は各ユニットごとで話し合い、入口の鍵は日中開けることとした。けがや事故のないよう見守りを重視している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は各ユニットごとで2カ月かけて取り組んだ。自己評価の意義を新入職員も含めて認識してもらいながら、チーフ・主任が中心になってまとめた。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2カ月に1度開催している。運営推進会議がマンネリ化しないよう、ホームからの状況報告や資料提供を行い勉強会も行っている。参加者の意見交換も行われており、ホームとしても認知症への理解を地域で深めてもらえる役割を実践できるよう提案をしていきたいと考えている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>利用者それぞれの状況をその都度家族に知らせ、家族とのかかわりを重視した支援を実践している。家族には実際に生活の様子を見てもらうことを前提に、意見が出しやすい雰囲気作りや目安箱を置くなど工夫している。出された意見にはすぐに対応し、運営に生かせるようにしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入し、清掃活動や草むしりにも参加している。地域住民との気軽な交流も増え、認知症に関する講演依頼も増えている。歌や絵手紙のボランティア、学生や社会人のボランティア、実習の申し出なども受け入れている。散歩や買い物で地域とのふれあいを大切にしている。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成21年の春に、同法人の他のグループホームとも話し合い、『笑顔のある家庭的な家』をはじめ、『地域社会と共に歩む家』、個人の尊厳を重んじながら安心して安全な生活を支援していきたいという考えを、誰にでも理解しやすいよう5つの理念にまとめた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	みんなで作った理念を共有できるよう、朝礼で当番制を組んで復唱している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	以前から地域の付き合いは大切にしていたが、自治会に加入したことで、地域の清掃や草取りに利用者も一緒に参加しており、気軽に声を掛け合ったり挨拶する場面も増えた。また、ホームの存在も理解されたためか、問い合わせや認知症の講演などの依頼も受けるようになり、積極的に応じるようにしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果は各ユニットごとに話し合い、家族の意見を取り入れながら改善している。自己評価に取り組む意義を理解してもらうために、2カ月かけて各ユニットごとで新入職員も含め取り組み、チーフ・主任が中心になってまとめた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2カ月ごとに開催している。行政からは包括支援センターが代表で出席している。マンネリ化を防ぐために、ホームが資料を提示したり勉強会に力を入ながら、参加者の意見交換を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市には毎週出向き、ホームの入居状況を伝えたり、市からの要望を聞いたり、ケアマネジャーとの連携について情報交換をしている。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族と利用者の関係が継続できるよう随時ホームから連絡を取り、生活状況や健康状態を伝えている。また、月に1度写真入りのお便りを個別に発行している。	○	家族の協力や理解をより深めてもらうために、ホームの行事のほか、知らせる機会が少ない職員の紹介や教育方針、利用者の日常生活である入浴状況や献立などもお知らせしてみてもどうか。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	実際に利用者の生活状況を家族に見てもらったうえで理解してもらい意見も出してもらいたいという思いで、意見の出しやすい雰囲気づくりに励んでいる。出された意見は検討したうえで、掲示板にて公表している。また家族に直接伝えたいことは、タイミングを逃さないように職員の連携を図っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	この1年間、職員の異動はほとんどない。離職に対しては、個別に相談し調整している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人が計画した研修会や勉強会には交代で参加し、それぞれ職場で報告し全体のものにできるようにしている。職員を育てる取り組みの一環として職員が働きながら資格等を取得できるよう、先輩職員が指導する場を設けている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会で進めている交換研修などに参加し、他のホームの良い点を取り入れるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の相談にはその都度応じ、家族と相談しながら、入居前には見学してもらおうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者それぞれの生活体験を通じた料理の仕方や生活様式の話聞きながら、アドバイスをもらう機会を大切にしている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、一人ひとりの思いや希望に耳を傾け、実現できるように努めている。家族と相談しながら、自宅への外出、同窓会の参加、理美容院の利用、飲酒の希望などの支援を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成に当たっては、職員の意見や家族・本人の意見を踏まえ作成している。サービス担当者会議には家族も参加してもらい、状況を確認してもらいながら希望や意見を出してもらっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングは毎月行っている。介護計画の変更は3カ月ごとに行っているが、状況に応じてその都度見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	要望に対してはユニットごとで検討し管理者と相談しながら柔軟に対応している。(墓参りや自宅への外出など)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望している地域のかかりつけ医への受診を支援している。協力医療機関が往診を毎週水曜日に行っている。また、歯科の協力医も往診に応じてくれる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所としての重度化や終末期に向けた方針が作成されており、入居時に家族等に説明している。状況等の変化に伴いその都度家族・関係者で話し合いを重ねながら方針を共有していくようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	尊厳ある生活を理念に掲げ、個人の情報の管理、声かけにも気をつけるようにしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ユニットごとの状況に応じ、利用者の希望に沿った支援をするよう心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつ作りや食器洗い・テーブル拭きなど利用者が職員と一緒にしているユニットもある。また、全ユニットに1名の検食者を置いているが、其々の状況によって利用者と一緒に食事をとっていないユニットもある。	○	検食とは別に、他の職員も一緒にテーブルで食事をするという家庭的な楽しみの場面を作っていける検討も期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、どのユニットも最低週2回は支援しているが、利用者の希望を聞いて毎日でも対応するユニットと状況を職員側で判断しているユニットがある。	○	ユニットごとでの状況の違いはあるが、体力や健康状態を考慮したうえでそれぞれの希望を確認しながら入浴の声かけや支援をしていく働きかけを期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ユニット合同の運動会や納涼祭のほか、各ユニットで季節の花見・ドライブ・買い物・リンゴやブドウ狩り等の楽しみごとを支援したり、洗濯物干し・洗濯ものたたみ・お絞り巻き・モップかけ・カーテンの開閉等の役割を持って張り合いのある生活が送れるよう配慮している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には散歩をしたり、外食や買い物に出かける機会を持つようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	どのユニットも日中は入口の鍵はかけていない。3階フロアーから階段を利用する場合でも怪我のないよう見守りの支援をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回計画に基づき消防署に協力してもらい、防災訓練を行っている。地域の人に対しての協力依頼は管理者が働きかけを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量や水分摂取量は1日の目安を決め確実に取れているかチェックしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニットとも広々とした環境の中でゆったり過ごせるようになっている。季節感を出す掲示もユニットごとで特徴を生かしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室でのんびりゆっくり過ごせるよう、こたつやテレビ、使いなれた家具などを持ち込み、生活しやすい工夫がされている。		